

1. 実施概要

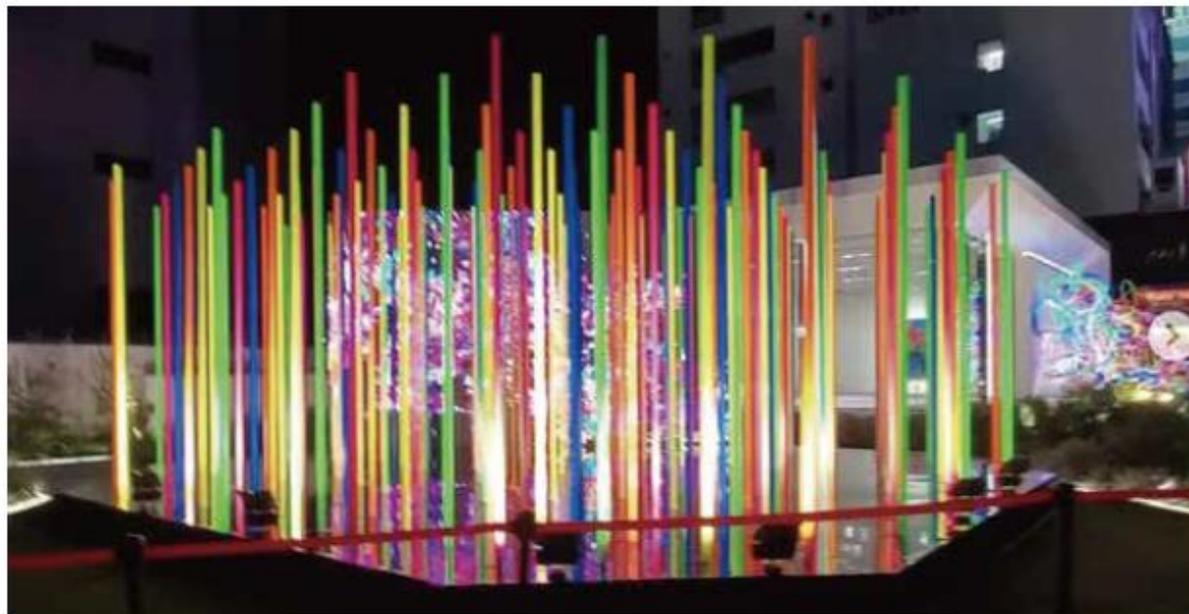
項目	記載内容
■ 設置期間	令和6年7月25日(木)～令和6年8月21日(水) 点灯時間：9：00～23：00
	<設営> 7月23日(火)3：00～24日(水)20：00
	<撤去> 8月21日(水)22：00～22日(木)6：00
■ 実施エリア	なんば広場 【半面A(西側)】
■ 検証主体	大阪市計画調整局
■ 検証協力	なんば広場マネジメント法人設立準備委員会

2.当検証における検証項目

検証内容（大項目）	検証内容（小項目）	検証手法
(1) シンボル設置場所の妥当性検証	①シンボル周辺の滞留検証	現地目視調査及び広場カメラ確認にて、シンボル周辺にどのように人の滞留が発生するかを検証する。
	②歩行者通行への影響検証	現地目視調査及び広場カメラ確認にて、シンボルの設置により歩行者導線の妨げになっていないかを検証する。
(2) 利用実態の検証	①滞在快適性向上効果の検証	現地目視調査及び広場カメラ確認にて、シンボルを設置したことで、待ち合わせ等、どのような使われ方をし滞在環境の創出に寄与しているかを検証する。
	②魅力・情報発信効果の検証	ハッシュタグ・位置情報発信から、シンボルについてのSNS発信がどの程度なされ、情報発信効果があるかを検証する。
	③不適正利用の有無の検証	現地目視調査及びシンボル用警備員による確認にて、シンボルに対し落書き等の不適正利用が行われなかったかを検証する。
(3) シンボル設置の市民満足度の検証		現地にてアンケートフォームQRコード付きのチラシ配布等によるアンケート調査を行い、広場利用者のシンボルに対する印象調査を行う。

3. なんば広場での設置物

東京・表参道の屋外公共空間で設置実績を有する立体アート作品をもとに、シビックプライドシンボルの本格設置を検証



鬼頭健吾氏を起用し、日常にありふれた既製品を使い、そのカラフルさや回転や循環などの動きを取り入れた大規模なインスタレーションをはじめ、立体、絵画、写真など多様な表現方法で知られています。カラフルなスティックを使用し、ダイレクトな色感にて縦のラインを創造。その色彩のリズムと直線とのコントラストが響き合います。大阪の多様な文化性や個性、人種、性別を超えた人々の感性や感情をひとつひとつのカラフルなスティックが表現。それらがリズムカルに並び響きあう景色は、これからの新しい文化をも表現し、この歩道を通る人々に楽しさと驚きを与えます。

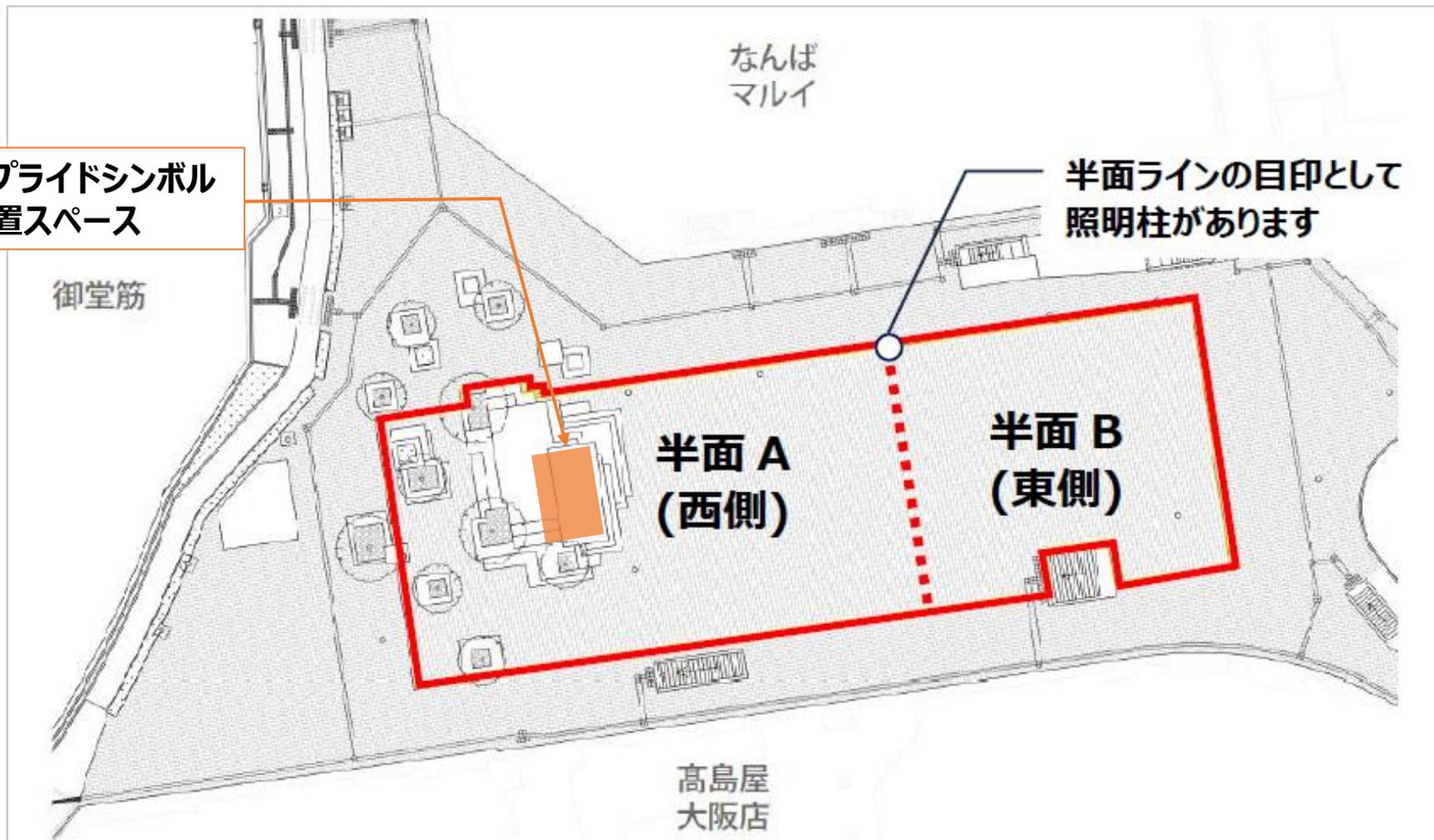


鬼頭健吾

名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業、2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了、2008-2009年五島記念文化財団の助成を受け、ニューヨークに滞在、2010年文化庁新進芸術家海外研修員、ベルリン（ドイツ）、京都や群馬を拠点に活動する鬼頭健吾氏で、国立新美術館や京都市京セラ美術館などでダイナミックなインスタレーションを手掛けています。京都芸術大学大学院教授。

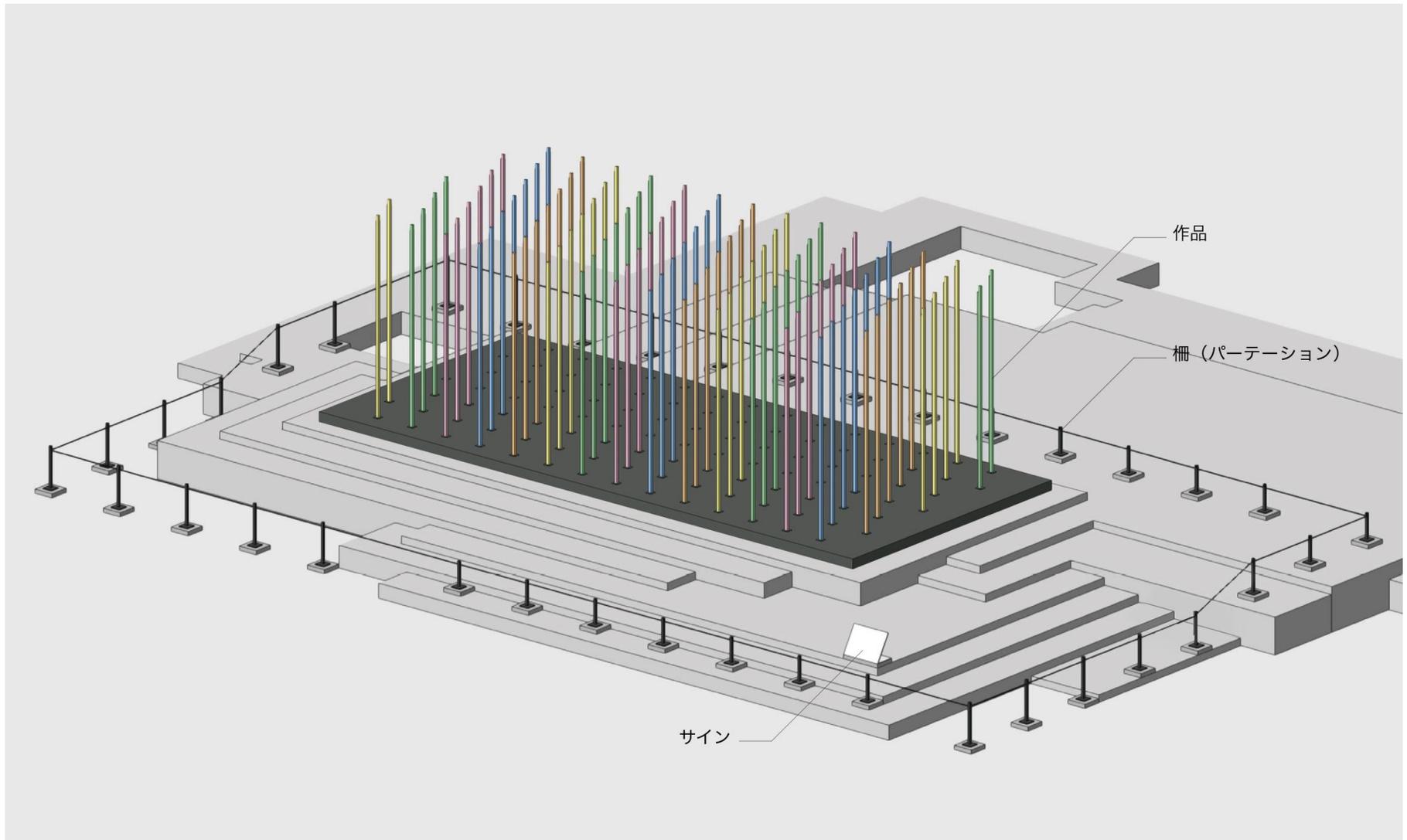
4. 配置計画詳細図

通行動線を考慮し、作品および関連備品はテラスベンチ上に設置するほか、鑑賞者の安全確保のため、作品の四方をパーテーションで囲い、警備員による立哨警備を実施する。



5. 設置物概要図

1. テラスベンチ上での設置 (立面図)



■ なんばカーニバルモールに置いた時の様子

